九州大学学術情報リポジトリ Kyushu University Institutional Repository

多次元多事象割り込みデータ収集処理システムの開 発

高橋,祐邦 九州大学大学院総合理工学研究科エネルギー変換工学専攻

大垣, 英明 九州大学大学院総合理工学研究科エネルギー変換工学専攻

日隈,精二 九州大学大学院総合理工学研究科エネルギー変換工学専攻

今別府, 悟 九州大学大学院総合理工学研究科エネルギー変換工学専攻

他

https://doi.org/10.15017/17627

出版情報:九州大学大学院総合理工学報告.7(1), pp.61-68, 1985-08-01. Interdisciplinary Graduate School of Engineering Sciences, Kyushu University バージョン: 権利関係:

多次元多事象割り込みデータ収集 処理システムの開発

> 高橋祐邦 ·大垣英明 ·日隈精二 今別府 悟 ·浦瀬賢治 ·藤田泰之 前迫浩範 ·亀谷 均· ·井尻秀信" 的場 優"··栄 武二····桑折範彦··· (昭和603月29日 受理)

Development of a data acquisition and analysis system for multi-dimensions and multi-events

Yuho TAKAHASHI, Hideaki OHGAKI, Seiji HIGUMA Satoru IMABEPPU, Kenji URASE, Yasuyuki FUJITA Hironori MAESAKO, Hitoshi KAMETANI^{*}, Hidenobu IJIRI^{**} Masaru MATOBA^{**}, Takeji SAKAE^{***} and Norihiko KOORI^{***}

A multi channel analyzer (MCA) system that consists of ratio to digital converters (RDC's), ADC's and a microcomputer has been developed. It has been tried to realize a data acquisition and analysis system for multidimensions and multi-events. Physics experiments have been performed using this system at Research Center for Nuclear Physics (RCNP).

The detailed diagram and operation of the data acquisition and analysis system and some examples of mesurement have been described.

1. 序

我々は、大阪大学核物理研究センター (RCNP)の大型サイクロトロン等を使用し,原子核反応実験を行い, 原子核の高励起(高温)状態,内部構造,原子核内部 における核反応メカニズムなどに関する研究を行って いる.

原子核物理実験で得られるデータは、多数の変数(パ ラメータ)を同時に記録する事が重要となる場合が多 い.例えば、入射粒子のエネルギー分布と入射位置の 情報を同時に測定する場合は2次元(2パラメータ) 実験と呼ばれる.また、散乱、核反応、壊変などによっ て放出された粒子の個々の事象(event)を別々に記録 する事も重要となる(多事象データ).このような実 験では、物理的意味を持つ実時間情報を的確に引き出 す多次元多事象ランダムデータの取り扱いが重要とな

- * エネルギー変換工学専攻博士課程
- ** エネルギー変換工学専攻
- *** 工学部応用原子核工学科

る.

本研究室では、パルス波高比ディジタル変換器 (RDC)^{1/2)}, ADC, マイクロコンピュータを結合して簡 単で高性能な計算機付き 4096 チャンネル多重波高分 析器 (MCA)を開発している. 今回, これらのシステ ムを拡張し、多次元多事象割り込みデータ収集処理シ ステム (今回は 2 次元 2 事象)の実現を試み、開発 したシステムのテスト実験を本研究室と大阪大学核物 理研究センター (RCNP) において行った.

ここでは、対象とするデータの特徴と収集システムの概念を述べ、このシステムのハードウェア、ソフト ウェアについて報告し、具体的な測定例を示してシス テムの特性を整理する.

2. 原子核物理実験データ収集処理の概念

2.1. 原子核物理実験データの特徴

a) 一般に放射線検出器からの信号は微弱で,その 信号は電荷パルスとして得られる.

エネルギー変換工学専攻修士課程

b) 放射線検出器のパルス信号は、ランダムに発生 する.

c)計数率が非常に大きく変化する(ここで取り扱うシステムでは、1~10⁵個/sec).

d) それぞれのデータの相関, 非相関関係が重要となる.

2.2. データ収集処理

データ収集処理システムの構成を Fig. 1 に示す.

一般に,放射線検出器から得られるパルス信号は前 置増幅器 (Pre-Amplifier),主増幅器 (Spectro Scopy Amplifier)を使って波形整形され増幅される.その信 号の波高値を正確に読みとり,ディジタル信号に変換 することで,マイクロコンピュータによる処理が可能 となるが,その為に高精度の ADC が必要となる.

以前,我々の研究室で開発した ADC は,線型スィー プ放電を利用した Wilkinson 方式³⁾を基本とし,入力 電圧パルス波高に等しく充電したコンデンサの線型放 電時間を 100 MHz のクロックパルスで計数すること により,ディジタル化している.

また,検出器での入射位置情報は,同時に得られる 2つのパルス波高値を割算することにより求められ る.従って,このパルス波高比を正確に求めることに より割算機能を付加した RDC としての使用が可能で ある.この割算回路は,Westphal⁴⁾によって発表され た回路を基本としている.

ADC (RDC) とマイクロコンピュータの接続には, 広島大グループが発表した CAMAC (Computer Aided Measurements And Control) 規格, CCP (Crate Control Port) 用標準バス⁵⁾ を採用している. 2.1 の b), c) の条件に十分対応できるように, マイクロコンピュータに割り込みをかけてデータ収集 処理を行なっている. この場合, ADC からの割り込 み要求信号 (LAM: Look At Me) により, マイクロコ ンピュータから ADC (RDC) に TOK (Transfer O. K.) 信 号が送られる. データ収集処理プログラムは, 処理速 度, ハードウェアの点から機械語 (Z80CPU) で書かれ ている.

2.3. 多次元多事象データ収集処理

現在一般に、多次元多事象データ収集処理システム はミニコンピュータ (PDP11, VAX11)を使用してい たが、最近のマイクロコンピュータの普及に伴い、高 性能化、大容量化、コストダウン等により、従来のシ ステムの代わりとしてマイクロコンピュータの使用が 十分可能となった.

そこで我々はまず,マイクロコンピュータを使用した2次元2事象データ収集処理システムを開発した. そのシステム構成を Fig. 2 に示す.

ADC (RDC)2台と事象情報(Event signal)とを CCPBUS上を介してマイクロコンピュータに接続し ている.この様に CCPBUSを採用する事により, ADC (RDC)を増やす事が可能となる.又,各ADCか らの割り込み要求信号の処理方法により,データの同 時収集か独立収集かの選択が可能となる.例えば, ADC (RDC)2台からの割込み要求信号の論理和(OR) をとる場合には同時収集処理が可能となり,相関,非 相関関係が明確となり,また,別々の割込み(多重割 込み処理)を行わせる事により独立収集が可能となる.

事象情報としては、RCNP 実験での原子核スピン(UP と DOWN)の2事象を取り扱う.

データ収集方法としては、入力データに対応するチ



Fig. 1 Data acquisition and analysis system



Fig. 2 Data acquisition and analysis system (Two dimensions and two events)

× ¥ Interrupt -List-Mode Asemmble Program for MCA-LIST5 * × 1985 # 18 178 ¥ ***** ; 0RG 08000H ; ISTORE:EQU OEF3FH ;Interrupt Level Store Address INFLAG:EQU OE6F1H ;Interrupt Flag Address ILEVEL:EQU OE6C3H ;Interrupt Level Address PORT: EQU OE4H ;3214 Current Status Register Port Address EF3F E6F1 E6C3 00F4 NOWAOD:EQU 0809EH ;Data Now Ad. Stack Address ENDADD:EQU 0ESFCH ;Data-in Memory End Address STADD1:EQU 08E01H ;Top Address for ADC-1 Spectrum Mode STADD2:EQU 0C201H ;Top Address for ADC-2 Spectrum Mode 809E E5FC BE01 C201 ;*Disable Interrupt ;*Save Register 8000 C5 8001 D5 8002 E5 PUSH BC PUSH DE PUSH HL 8003 F5 PUSH AF ;*Store Level Data LD A.(ILEVEL) PUSH AF 8004 3AC3E6 8007 F5 Save Level ;*Set Interrupt Level 8008 3E04 800A 03E4 800C 323FEF 800F 32F1E6 LD A,04H OUT (PORT),A LD (ISTORE),A LD (INFLAG),A ;INT4 Level 8012 FB εI ;Enable Interrupt ;*Get ADC Data-1 LD 8,03H LO C,0COH ;Set Crate No. for ADC-1 ;Set CCP-BUS Register No. for ADC-1 8013 0603 8015 0EC0 8017 CD4780 CALL INPADC 801A E5 PUSH HL ;Get AOC-1 Data ; ;*Get ADC Data-2 LD 8,04H CALL INPADC ;Set Crate No. for ADC-2 ;Get ADC-2 Data 8018 0604 8010 C04780 ;*Set Data to Memory-2 LD A,020H LD DE,STADD2 B020 3E20 B022 1101C2 B025 CD52BD ;Set ADC-2 Number ;Set Top Memory Address for ADC-2 CALL SETMEM ; ;*Set Data to Memory-1 POP HL LD A,010H LD DE,STADD1 ;Set ADC-1 Data B028 E1 B029 3E10 B028 11018E ;Set ADC-1 Number ;Set Top Memory Address for ADC-1 DE,STADD1 802E C05280 CALL SETMEM , ;*Output Transfer O.K. OUT (C),A LO B,O3H OUT (C),A :Output Transfer O.K. for ADC-2 BO31 ED79 BO33 0603 BO35 ED79 ;Output Transfer O.K. for ADC-1 ;*Restore Level POP AF LO (ISTORE), OUT (PORT),A POP AF 8037 F1 8038 323FEF 8038 03E4 (ISTORE),A ;Restore Register 8030 F1 BO3E E1 BO3F D1 BO40 C1 BO41 00 POP HL POP DE POP BC NOP B042 C9 RET ; NOP 8043 00 8044 00 8045 00 NOP NOP NOP B046 00



Fig. 3 Program of list mode data acquisition and analysis (Tow dimensions and two events)

ャンネル数に1を加えていくヒストグラムモードと ADC (RDC)からのデータに事象情報や ADC 番号など を加え、そのままメモリやフロッピーディスクに記録 していくリストモードがある.2次元2事象リスト モードデータ収集処理プログラムを **Fig.3**に示す.

データ処理方法としては、リストモードデータから ADC 番号、事象情報、ADC (RDC) データを読みとり、 ヒストグラムモードによるスペクトル表示用メモリー に振り分ける.また、Fig.4に示すように入射位置情 報を横軸(X)に、エネルギー分布情報を縦軸(Y)にと り、対応する(X,Y)マトリックスに1を加えていく (2次元データマップ処理).これは、(X,Y)と2軸 によって表され、3次元表示、2次元マップ表示が 可能となり、より立体的に物理現象などを表現するこ とができ、原子核物理実験の解析や検出器の開発に極





n

1cm

めて有用となる.

3. 実験及びその結果

この節では、今回開発した多次元多事象ランダム データ収集処理システムのテスト実験として、

1)本研究室の軟 X 線発生装置とガス計数管など を使用して行った実験,

RCNP における原子核物理実験,

を行った際の実験装置,測定回路及びその結果, について述べる.

3.1. 本研究室におけるテスト実験

この実験では、強電界放出現象を利用した数 keV のエネルギーの軟 X 線発生装置⁶⁷⁷を使用した. 放射 線検出器としては、分割陰極多重陽極型位置検出比例 計数管⁸⁰を使用した. ガス計数管の構造は **Fig. 5** に示 す. 分割陰極からの信号は、まず電荷有感型前置増幅 器(以後プリアンプ)を使用して増幅した. ガスは主 に $Ar: CH_4 = 70: 30, Ar: CH_4 = 80: 20$ の混合ガス を用いている.

実験方法としては, Fig. 6 に示すように (a) TYPE. [と(b) TYPE.]]の2通りの方法で行った. TYPE.] は位置分解能と陰極出力全電荷パルス振幅の同時測定 で, TYPE.]] は陽極出力全電荷パルス振幅と陰極出 力全電荷パルス振幅の同時測定である.

全電荷パルスの測定 (TYPE. II) では, 陰極両端から の信号をサムアンプで和をとり, スペクトロスコピー アンプで整形, 増幅し, ADC へ接続した. また, X



Cross Section View Of The Counter

dianode wire elcathode strip fishield plate

Fig. 5 Schematic view of the counter



Fig. 6 Electric block diagram

線入射位置測定(TYPE.I)では, 陰極左側の出力を1 台のサムアンプに, また陰極両端の出力をもう1台 のサムアンプに入れ和をとり, それぞれ同じ型のスペ クトロスコピーアンプで整形, 増幅する. 陰極両端の 和をとった信号と陰極左側のみの信号をそれぞれ RDC の分母側と分子側に接続した. 陽極芯線からの 信号は, プリアンプ, スペクトロスコピーアンプを通 して整形, 増幅し, ADC に接続した.

以上のデータ収集には8ビットマイクロコン ピュータ PC-8801,8'フロッピーディスク装置,5' フロッピーディスク装置を接続して,主に2次元1



Fig. 7 Map of two dimensions (Position resolution VS Avalanche size of cathode output)

事象データ収集処理プログラムを使用した⁹. データ 処理には PC-8801 上で2次元1事象ソーティン グ・データ処理プログラムを使用し, PC-9801 上で は2次元マップデータ処理プログラムを使用した.

実験結果は、TYPE. I によるものを Fig. 7 に、 TYPE. II によるものを Fig. 8 に示す. Fig. 7 の 2 次 元マップの横軸は位置分解能,縦軸は陰極出力全電荷 パルス振幅に、Fig. 8 の 2 次元マップの横軸は陽極 出力全電荷パルス振幅,縦軸は陰極出力全電荷パルス 振幅に対応する.

3.2. RCNP における実験

我々は, RCNPの AVF サイクロトロン施設におい て大型の QDMDQ 型荷電粒子スペクトログラフ¹⁰⁾ (RAIDEN)を使用して原子核反応の研究を行っている. このスペクトログラフの位置検出システムとして, 1.8 m 長の抵抗芯線型の比例計数管数台と2 m 長プラ スチックシンチレーターから構成されるシステム (KYUSHU検出器システム)¹¹⁾を開発し,実験に使用し ている.

これまでは, RDP (Raw Data Processor)¹², ミニコ ンピュータ PDP11 等のデータ収集処理システムを使 用してきたが, 今回の実験ではマイクロコンピュータ を使用し, 実際に我々が開発したデータ収集処理シス テムのテスト使用を行った.



Fig. 8 Map of two dimensions (Avalanche size of anode output VS Avalanche size of cathode output)

昭和60年

実験に使用した検出器システムの配置と測定回路系 を Fig. 9 に示す. ガス計数管 (X1, X2, ΔE ガス計数 管) は、単芯線型比例計数管 (SWPC) を用い、その陽 極芯線には長さ 1800 mm、直径 20 μ m のステンレス 線を使用している. このガス計数管 (X1, X2, ΔE ガ ス計数管) に軟 X 線を入射させてテストした際の 2 次元マップを Fig. 10 に示す. 2 次元マップの横軸と 縦軸はそれぞれ位置分解能(4096 チャンネルのうち 1700~2000 チャンネル)と陽極出力全電荷パルス振 幅に対応している.

今回の RCNP 実験では、ガスは $Ar: CH_4 = 70:30$ の混合ガスにエチルアルコールを飽和させたものを用いた.また、各ガス計数管(X1, X2, ΔE ガス計数管)から得られる電荷パルス信号は、プリアンプ、スペクトロスコピーアンプにより波形整形後、増幅した.X1 ガス計数管の入射粒子位置情報は次の方法で収集した.

- 割算回路¹¹²の出力を ADC によりディジタル化
 パルス波高分析器 (Pulse Height Analyzer) に より処理した後,磁気テープに記録.
- 2) RDC をマイクロコンピュータ (PC-8801) に接続してデータ収集処理を行い、データをフロッピーディスクに記録。



amplifier (ORTEC 472); TSCA: Timing single channel analyzer (ORTEC 455): DLA: Delay amplifier (ORTEC 472 A); GOG: Gate and delay genelator: (GRTC 416 A); GOH: Coincidence circuit (ORTEC 418 A); UIY: Analog division circuit; MCA: Multchannel analyzer. PAA: Pulae Meight Analyzer: SCU: Spin Control Unit

Fig. 9 Electric block diagram (RCNP experimentation)



Fig. 10 Map of two dimensions (Position resolution VS Avalanche size of anode output; for ultra soft x-rays generator)



Fig. 11 One dimension and two events spectrum for elastic protons

なお、マイクロコンピュータでは1次元2事象デー タ収集処理プログラムを使用し、X1ガス計数管の入 射粒子位置情報と原子核スピン(Up と Down)事象情 報を読み込み、ヒストグラムモードによるスペクトル 表示(Up と Down)を行った.また、別のマイクロコ ンピュータ(PC-8801)を使用する事でデータ収集と 同時並列にデータ処理解析を行った.

実験は弾性散乱させた陽子と³He 粒子を検出器システムに 36°の入射角で入射させ行った. Fig. 11

- 67 -

は,弾性散乱された陽子を検出器システムに入射させた場合の X1 ガス計数管位置分解能スペクトルの測定 例を示す.原子核スピン Up 事象は上段,Down 事象 は下段に対応している.

4.考察

従来のシステムに代わり、マイクロコンピュータを 使用する利点として次の4点が考えられる.

- 従来のミニコンピュータ CPU 時分割多重使用のノイマン的使用に対して、マイクロコンピュータ数台の同時並列処理による非ノイマン的使用が可能となる。
- 5) 従来のシステムに対して約 1/100 のコストダ ウンが計れる.
- 3) システムアップが比較的簡単に行える.
- 4)ソフトウェア開発,データ収集処理等が個人(研究室)単位で専有可能となり、即ち、データ処理 解析が可能となる。
- しかし、次のような問題点もある.
 - 1)データ収集処理速度が遅い.
 - 2) 多次元多事象化する程,計数率が下がる.

このような問題点に対し,将来,16,32ビット高性 能 CPU を持つマイクロコンピュータを使用すること で解決可能と思われる.

5. 結 論

 今回,2次元2事象までのデータ収集処理シ ステムを実現したが、これにより、多次元多事象 のデータ収集処理システムを開発する際の指針を 与えた。

- マイクロコンピュータによるリストモードデー タ収集処理、3次元データ処理(2次元マップ) を実現し、これまで以上にデータ処理能力を向上 させた。
- 3)実際の原子核物理実験で、2台のマイクロコンピュータを使用してデータ収集処理、データ解析を行い、マイクロコンピュータの同時並列処理による安価で高性能なデータ収集処理システムを実現した。

REFERENCES

- M. Matoba, H. Kurokawa, T. Sakae, H. Ijiri, H. Kametani and K. Komatsu: Nucl. Instr. and Meth. 224 (1984) 173.
- 2) 黒川浩彦:修士論文,昭和58年3月.
- D. G. Wilkinson: Proc. Cambridge Phil. Soc. 46 (1950) 508.
- 4) G. P. Westphal: Nucl. Instr. and Meth. 134 (1976) 387.
- 5) 遠藤一太: パーソナルコンピュータによる CMACC 制御 方式標準化. Progress report No.1 (1980); No.2 (1981).
- 6) 藤田泰之: 卒業論文 昭和 59 年 3 月.
- A. W. Kolfschoten, H. W. Vanderven and A. Buijs: Nucl. Instr. and Meth. 188 (1981) 477.
- 8) 大垣英明:修士論文 昭和 60 年 3 月.
- 9) 川村清: PC-8801 解析マニュアル (1982, 秀和システムトレーディング)
- 10) H. Ikegami: RCNP Annual Report (1977) 64.
- 11) M. Matoba, K. Tsuji, K. Marubayashi, T. Shintake, H. Ikegami, T. Yamasaki, S. Morinobu, I. Katayama, M. Fujiwara and Y. Fujita: Nucl. Instr. and Meth. 180 (1981) 419.
- 12) I. Katayama and H. Ogata: Nucl. Instr. and Meth. 174 (1980) 295.